



## 地域社会への感謝を伝えるために できる活動が無理せず、一歩ずつ

### 東京都 鳳企業株式会社 「新宿アラジン 社会貢献活動」事業



鳳企業株式会社  
代表取締役  
泰青さん

#### 選考理由

今年度の社会貢献大賞は、初めて組合員ホール部門から選出された。受賞団体鳳企業株式会社の「新宿アラジン 社会貢献活動」には、心身障がい児を収容する島田療育センターへの支援活動、新宿区での交通安全活動、道路の美化清掃活動、客引き防止活動などがあり、いずれもホール職員の積極的なボランティア活動を伴う優れた取り組みである。

さらに特筆すべき活動として、2017年度から新たに実施されているpp(パチンコ・パチスロ)奨学金事業がある。ホールのお客さんが寄付して下さった端玉等を財源として、経済的に困窮している成績優秀な大学生などを対象とし、月額5万円の返済義務の無い給付型の充実した事業内容である。厳正な審査を経て、2019年度は、37名もの大学院生・学部生などが選抜され、奨学金を支給されている。その社会的意義は顕著である。

社会貢献大賞を受賞される関係者の皆さまに、心から敬意と祝意を表したい。

社会貢献活動審査委員会  
委員  
野口昇氏



### 地域社会や地元の人々に支えられて 事業が半世紀継続していることに感謝

高度経済成長期の1969年に創業し、2019年に創立50周年を迎えたのが、東京・西新宿の繁華街にホールを構える「新宿アラジン」である。現在、約90名の従業員(アルバイト含む)がパチンコ、パチスロを楽しむお客様に快適な遊技環境を提供すべく働いているが、同ホールでは企業の社会的責任の一環として、社会貢献活動や地域貢献活動に積極的に取り組んでいる。

そうした活動の根底にあるのは、「地域社会や地元の方々に支えられて、半世紀も事業を継続することができたことに対する感謝と恩返し気持ち」だと、同ホールを経営する鳳企業株式会社の専務取締役、滝澤司郎さんは話す。また、執行役員常務、佐藤博さんは、「遊技業界が社会貢献活動に取り組むことで、業界全体の社会的認知度やイメージの向上・刷新に資することに加え、従業員が誇りを持って働くことにもつながる」と話す。

助け合い社会や共生社会を築くことの重要性が盛んに言われているが、そのためには地域で暮らす人々はもとより、そこに基盤を置いて事業を営む企業が果たす役割も大きい。「自分たちができることを、率先して、無理せず、一歩ずつ確実に実行することで、地域や社会、お客様に感謝の気持ちを伝えたい」と、滝澤さんと佐藤さんは口を揃える。その一歩の積み重ねが、助け合いや共生社会を育む。



ホールに設置されている「pp奨学金」の募玉募金箱



店内で「pp奨学金」活動内容や奨学金を給付した学生たちの声を掲示し、周知活動に取り組む

### 奨学金問題の解消に向けて 「pp奨学金」の活動に積極的に協力

同社が遊技業界の仲間とともに取り組んでいる活動の一つが、「pp奨学金(パチンコ・パチスロ奨学金)」である。報道でも明らかなように、日本ではいま、大学進学や勉強を継続するために貸与された奨学金の返済で生活困窮に追い込まれている人々が多い。その問題にいち早く着目したパチンコ・パチスロ業界の有志が、2016年秋に「社会福祉法人さほうと21」とともに設立したのがpp奨学金である。

pp奨学金は、ホール内に設置された募玉募金箱にお客様が募玉してくれた端玉(余玉)を原則、貸玉料金に換算して、各店からさほうと21に寄付し、そこから国内の学校に通う経済的な理由で就学が困難な18歳以上の学生に給付される仕組みとなっているが、最大の特徴は「返済を求めない給付型の奨学金」であることである。

2017年にはパイロット給付生8名を選考、2018年度から給付希望者の一般公募・選考をスタートさせたが、同年度は、高校3年生、専門学校生、高専生、大学生、大学院生から計49名の応募があり、書類選考、面接を経て、22名に対する給付を決定した。また、前年度のパイロット給付生3名に対しても給付を継続した。なお、現在、pp奨学金メンバー(会員)は48(団体、企業、個人の合計)、募玉募金箱の設置店舗は123店となっている(2019年3月時点)。

新宿アラジンでは代表取締役の泰青さんがpp奨学金の運営を担うpp奨学金委員会の委員に名を連ねるとともに、その活動に積極的に取り組み、2018年12月時点で、同店からさほうと21への寄付の累計総額は約1,125万円となっている。毎月、平均すると45~50万円が寄付されており、その9割はお客様からの募玉や募金だという。

滝澤さんは、「活動をスタートさせた当初から予想以

上の反響があり、募玉や募金も順調に寄せられました。興味を持たれたお客様に返済義務のない奨学金だご説明申し上げたり、そんな素晴らしいことをしているんだと声を掛けていただいたりしたこともあります」とのことで、お客様にpp奨学金の趣旨が理解され、その活動に支援や協力が寄せられていることがわかる。同ホールでは景品交換カウンター横に募玉募金箱を設置、さらにホール内の通路に、奨学金の趣旨、寄付の領収書、奨学金給付生から寄せられた感謝の声などを印刷したポスターを掲示し、啓発や広報に努めている。

## 業界の先達が灯した福祉の火を守るため重症障がい児施設を支援

鳳企業(株)では2017年に「島田療育センターを守る会」(以下、守る会)に入会し、その支援や協力に取り組み始めた。島田療育センターとは、1961年にパチンコホール経営者であった故・島田伊三郎さんが多摩丘陵に購入した約1万坪に及ぶ広大な土地を寄贈したことで設立された、日本で初めての重症心身障がい児施設で

ある。当時は障がい者福祉に対する社会的な理解も薄く、設立後は経営的にも困難を抱え、存続が危ぶまれたが、遊技業界の大先輩が私財をなげうって灯した福祉の火を消してはならないと、1975年に業界関係の約10名の有志が中心となって発足したのが守る会である。

現在、守る会は東京都遊技業協同組合に属する組合員有志をはじめ、関東の同業有志で組織され、75年から毎年、募金活動を継続しており、その累計寄付金総額は2億5,000万円を超えている。同社でも寄付を行うとともに、代表取締役は守る会の世話人の一人でもある。

さらに寄付に留まらず、同社では同センターの一大イベント「わいわい祭り」にもボランティアスタッフの一員として参加している。このイベントは、地域住民との親睦や職員の慰労を目的に開催されているものだが、ジュースの配布や焼きそば、かき氷などの模擬店、ゲームコーナー等で大いににぎわう。2018年9月8日に開催されたわいわい祭りには、約1,500名の来訪者があり、守る会から約70名のボランティアスタッフが参加した。

「ももとは、守る会の副会長を務めている(株)ミリオン



ボランティアスタッフとして参加している島田療育センターの「わいわい祭り」



春と秋の交通安全週間には、従業員が横断歩道で交通安全活動を実施



町内の道路美化清掃活動や路上喫煙禁止パトロール、ポイ捨て防止活動にも積極的に参加

インターナショナルの小島豊様からのお声がけで会に参加することになりましたが、去年は当社から泰、佐藤、私の3名、さらに知り合いの組合員を誘って参加しました。私たちはドリンクコーナーやゲームコーナーのお手伝いをさせていただきましたが、施設を利用されている障がい者のみなさんの笑顔を見ているだけでも、参加した意義がありました。センターの取り組みや重症障がい者の現状を実際に自分たちの目で確かめ、認識することによって一層、同業者や社会に対する周知に取り組むことができます。今後、社内の人間にも声をかけ、もっと参加者を増やしていきたいと思っています」と、滝澤さんは話す。

## 所在する町会と密接に連携しながら地域をよくする活動に主体的に参加

地域の人々に支えられてこそ自分たちの事業が成り立つという認識のもと、同ホールでは会員となっている西新宿一丁目町会と密接な関係を保ちながら、町会が行う様々な地域活動にも積極的、主体的に参加している。

その一つが、春と秋の交通安全週間に横断歩道で歩行者が安全に渡れるように旗を用いて誘導する活動である。この活動には、週間内の毎朝、1時間、従業員の希望者から1名が参加している。また、5月30日のごみゼロの日をはじめ、年5回実施される道路美化清掃活動や路上喫煙禁止パトロール、ポイ捨て防止活動へも従業員の希望者が毎回、4~5名参加しているほか、町会内での悪質客引きによる被害を無くすために毎週2回(月、金)行われる巡回パトロールにも、同社内に7名いる客引き行為等防止指導員の資格を持つ従業員が参加している。

こうした努力の積み重ねにより、同ホールは町会内においても頼りになる存在として認知されており、良好な関係を築いている。地道な活動ではあるが、それを継続することで、業界全体のイメージアップにも貢献している。